

いざ往かん!

太田東高校キャリア教育部
2020.6.22(月)発行 No. 2

現3年次生の大学入試日程がやっと発表されました!

共通テスト日程合意

文科省、校長ら 予定通り1月16、17日

文科省は17日、高校や大学関係者を集めた会議を開き、2021年の大学入学共通テストを予定通りの日程で行うことで大筋合意した。文科省では、国内にも大学入試の実施要項を公表する方針。

この日、文科省は、共通テストについて来年1月16、17日、一般入試は9月から、予定通り実施する案を提示した。今年9月から出願が始まる総合型選抜(旧AO入試)は2週間繰り下げ、学校推薦型選抜(旧推薦入試)は11月から、予定通り行うとした。公立高校の校長ら(高校3年生が)休校による学

2021年大学入試の日程案

1月16、17日	大学入学共通テスト
1月30、31日	共通テスト(追試)
2月1日~	私立大一般入試
2月13、14日	共通テスト(再度の追試)
2月25日~	国公立大2次試験

習遅れを挽回する時間が必「要」として1か月の繰り下げを主張していた。このため、文科省案は学習遅れへの対応として、共通テストの追試験を本試験の2週間後に設定。現在2か所の会場を47都道府県に拡大し、新型コロナウイルス感染のほかに「学習遅れ」を理由にした受験も認められた。今秋の出願時から、本試験でなく追試も選べる。会議では、追試を受けるには、高校が学習の遅れを証明することを求める意見も出た。対象範囲は今後、検討される。さらに文科省は、大学側が入試問題を作る上での配慮も要請。高3で学ぶことが多い数学Ⅲ、物理、化学、生物では発展的な学習内容から出題しないよう出題範囲の削減や選択問題を増やすことなどを求めた。

(読売新聞 2020.6.18 朝刊より)

新型コロナウイルスの影響で学校が臨時休業となったこともあり、高校3年生の学習の遅れが心配されていました(5月頃の報道では9月入学まで検討していたようです)。全国高校長協会は入試の1ヶ月後倒しを求めていたのですが、大学側は予定通りの実施を求めていましたので、上の記事のようになった模様です。共通テスト出願の時に本試験ではなく2週間後の追試を選ぶこともできるとのことですが、その後の私立大入試や国公立2次試験の日程に変更がないことから、おそらくほとんどの受験生が1月16・17日の本試験に出願すると思われます。

大学入試日程が実施の数ヶ月前に決まるというのは異常事態であり、しかもそれが初の共通テストなので3年次の皆さんは大変ですが、全国のライバル達も同じ条件なので、ここは気持ちを切り替え受験勉強に打ち込んだものが合格の栄冠をつかみます。全国のライバル達がボーっとしている間にすばやく本格的受験勉強をスタートさせれば第一志望合格も夢ではありません。もちろん、健康管理をしっかりすることも受験生にとって大切なことですよ。

大学について調べてみよう!

第1回進路希望調査がやっとまとまったので見てみましょう。やはり、どの年次も大学進学希望者が多いのですが、学年が進行するにつれて私立大の割合が増え、また専修・各種の希望者も増えていることがわかります。また、1年次の「未定」が多いのは仕方ないかもしれませんが、文理選択もあるので、自分の進路について考え始めましょう。3年次の「未定」の数がやや多いのは、いよいよ本格的に自分の進路を決める時期となって真剣に考えた結果、再び悩み始めた人が多いのでは? 夏の三者面談までに担任の先生と是非相談してみましょう。

令和2年度太田東高校進路希望調査結果

	1年次	2年次	3年次	合計(割合)
国公立大文系	49	58	56	163 (21.7%)
国公立大理系	68	87	75	230 (30.6%)
私立大文系	15	40	75	130 (17.3%)
私立大理系	14	15	25	54 (7.2%)
短期大学	3	4	3	10 (1.3%)
専修・各種	5	7	10	22 (2.9%)
就職	1	0	1	2 (0.3%)
その他	0	0	3	3 (0.4%)
未定・未回答	83	27	27	137 (18.2%)

ところで日本に大学はいくつあるか知っていますか? 旺文社によれば、昨年4月入学者の学生募集を行った大学は774。そのうち国立大学は82(全体の10.6%)、公立大学が91(同11.8%)で、残りの約8割が私立大学ということです。それらの大学は、歴史も規模も立地条件も費用も教育内容も卒業後の進路もすべて異なり、どの大学に進学するかで君たちの人生は大きく変わってきます。自分が学びたい学問を学ぶことができ、自分の夢を叶えてくれる大学を見つけ、そこを目標として学習しましょう。

国公立大と私立大の違いって何?

本校の進路希望調査は大学を国公立大と私立大に分けていますが、両者の違いは何? 基本的には設立者の違いです。国立大は「国」、公立大は「県や市などの地方公共団体」、私立大は「民間の学校法人など」が設置者ということになります。そのため、国公立大と私立大では学費や教員1人あたりの学生数がだいぶ異なります。国立大学の初年度納付金は入学金と授業料の合計817,800円ですが(公立大もほぼ同水準)、私立大文系平均はその約1.5倍(120万円弱)、私立大理工学系平均は約2倍(160万円弱)であり、薬学部や医学部はさらに高くなります。2年目以降も学費の差は続くので卒業までの差は莫大な金額になります。そしてもう一つの国公立大と私立大の大きな違いは、入試に必要な受験科目数です。国公立大学の一般入試は必ず共通テストと各大学が実施する二次試験を受験しなくてはならないので、私立大に比べると受験勉強の科目数が多くなります(ただし、人気私立大は倍率も高く、必ずしも受験勉強の負担が減るわけではありません)。もちろん私立大にも伝統や建学理念があり、研究や教育だけでなくサークル活動などにも力を注いでいる大学が数多くあります。今夏のオープンキャンパスはほとんどの大学が中止するようですが、Webなどでいろいろな大学を調べて自分が行くべき場所を見つけましょう!